

《FX 関連用語集》

1. 外貨投資 基本用語

- *外貨投資 : 海外の通貨を一般的に「外貨」と言い、外貨投資とは円を外貨に両替して運用すること。
外国の高金利な利息収入、外貨の値上がりによる為替差益を手にすることが出来る。
外貨投資には、外貨預金・外貨建てMMF(マネーマケツ・ファンド)・外国債券・外国為替証拠金取引などがある。
- *FX : 外国為替証拠金取引(Foreign Exchange)の略。元手のお金を証拠金としてFX 会社や証券会社に預けることで、その証拠金の数倍・数十倍の金額で外貨を売買したり、金利を受け取ったりして儲ける外貨投資法。
- *円高/円安 : 円高 → 日本円の価値が高い状態のこと。
例えば、1ドル=100円から、1ドル=95円となったら円高となる。
同じ金額の円でも、多くの外貨を買うことが出来る。
円安 → 日本円の価値が低い状態のこと。
例えば、1ドル=100円から、1ドル=105円になったら円安となる。
円安の時に外貨を円に換えるとより多くの円が手に入る。
- *為替差損益 : 為替相場の変動によって発生した損益のこと。為替レートが変動したことで手に入れた利益は「為替差益」、反対に変動によって生じた損失は「為替差損」と呼ぶ。
例えば、1ドル100円で買い、1ドル105円に変動した時に売ると、その差額5円が為替差益となる。反対に、1ドル100円で買い、1ドル95円に変動した時に売ると、その差額5円が為替差損になる。
- *為替レート : 日本の通貨「円」と外貨は、売買や交換をしたりすることで相互に関係しており、このとき「いくら日本円なら、いくら外貨が買える」というように、相対的に通貨の価値が変わっていく。この価格の変化を表しているものが「為替レート」。一般的に為替レートは「1ドル=〇円」と表記され、例えば「1ドル=100円」と表記されていた場合、「1ドルの売買には日本円100円が必要ということを示す。
- *基軸通貨 : 外国間で取引する時に基本となる通貨のこと。各国の当局が外貨準備高として保有したり、企業・個人が国際間取引で広く使用している通貨。
価値の変動が激しくなく、安定している通貨が選ばれるが、現在は米ドルが基軸通貨となっている。

- * 主要通貨 : 外国為替市場で、多くの市場参加者が頻繁に売買している通貨のこと。
メジャー・カレンシーとも言う。現在の外国為替市場では、米国ドル、日本円、ユーロ、イギリスポンド、スイス・フラン、オーストラリアドルなどがこれにあたる。逆に主要通貨以外の通貨はまとめて非主要通貨(マイナー・カレンシー)と言う。
- * 証拠金 : 取引を行うために担保として預け入れる資金のこと。(=委託証拠金)
- * 取引手数料 : 取引が約定したとき、FX 会社などに支払う手数料のこと。
- * 仲値 : 金融機関が決めた取引レートのこと。日によって変動する。外貨を円に換える時や、円を外貨に換える時は仲値に決まった手数料を足した金額が実際の取引金額になる。
- * TTB/TTS : TTB→外貨を円に換える時の取引金額のこと。(Telegraphic transfer buying rate)
TTS→円を外貨に換える時の取引金額のこと。(Telegraphic transfer selling rate)
- * 単利/複利 : 単利 → 初めに預け入れたお金に対して、毎年同じ額の利息がつくこと。
例 1000 万円預け、利息が 2%だった場合、毎年 20 万円ずつ増えていく。
複利 → 初めの年は単利と同じだが、利息がついた次の年は「初めに預けた額+利息」を新しい元本として計算した利息がつくこと。
例 最初に 1000 万円預け、利息が 2%だった場合、初めの年は 1000 万円の 2%の 20 万円が付き、その次の年は 1020 万円の 2%が利息としてつく。

2. FX 基本用語

- * 相対取引 : 売り手と買い手の合意によって成立する取引のこと。金融では取引所を介さない取引全般を指す言葉として用いられる。
相対取引に対して、取引所で売り買いするものを取引所取引と言う。
- * インターバンク市場 : 金融機関同士の取引のこと。顧客から注文を受けた FX 業者や銀行の間で行われる相対取引のことを言う。
- * 外国為替市場 : 外国為替取引が行われる場のこと。実際に物理的な建物・取引所などの市場があるわけではなく、電話やコンピューターなどの通信システムなどで成り立つネットワーク上の市場のこと。
- * マーケット : 外国為替市場や株式市場など。または、金融市場のこと。
- * アスク/ビッド : アスク(ASK) → 外貨を買う時に提示される金額のこと。「アスクレート」
ビッド(BIT) → 外貨を売る時に提示される金額のこと。「ビッドレート」
- * 2WAY プライス : 「アスクレート」と「ビッドレート」の両方を提示すること。
- * ポジション : 投資家が取引しようとしている、まだ決済していない通貨の種類や数量の状況を示す言葉。これからも売ったり買ったりする状態のこと。
売りのポジションを保有している状態をショートポジション、買いの注文を保有している状態をロングポジションと言う。
- * 強制決済 : 証拠金以上の損失が発生することを回避するため、FX 会社によって強制的にポジションを決済されること。
強制決済の行われる基準は FX 会社によって異なる。
- * 差金決済 : 決済の時に、現物の受渡しを行わず、差損益の授受によりポジションを決済すること。
- * 決済日 : 取引した通貨を交換する日、もしくは受渡し日のこと。
- * スプレッド : アスクレートとビッドレートの価格差。
- * スワップポイント : スワップとは「交換する」という意味。通常、通貨には金利が発生する。その金利は、その通貨によって異なり、FX ではその通貨の金利差を受け取ることが出来たり、反対に支払う必要が生じたりする。この時の金利をスワップポイントと言う。
「手持ちの通貨よりも金利の高い外貨を買った時に受け取れる金利」
または、「金利の低い通貨を買った時に支払わなければならない金利」。

- * 損切り : 自分が行っている取引で損失が出た時に、これ以上ひどくならないうちに許容出来るタイミングで損を承知で決済すること。損切りをすることで証拠金を守ったり、損切りが出来なくて損益が非常に大きくなってしまう。
- * 利食い : 自分が行っている取引で利益が出た時に、早めに決済をして確実に利益を得ること。
- * マージンコール : 証拠金維持率がある数値より下回った時に、そのことを利用者に通知する取引業者の機能のこと。マージンコールが発生したら、保有ポジションの決済や追証が求められることが多い。
- * 追証 : 証拠金の追加をすること。相場の変動により計算上の損失がある一定の割合を超えてしまった場合に差し入れる資金。
- * ロスカット : 証拠金維持率がある数値より下回った時に、そのことを利用者に通知せずに、保有ポジションの決済や取引停止が強制的に行われる取引業者による措置のこと。また、「損切り」を意味することもある。
- * 通貨ペア : 組み合わせる通貨のこと。FX では常に通貨ペアが存在することになる。例えば、米ドル円は米ドルと円で交換する通貨ペアのこと。
- * レバレッジ : てこの原理(てこと呼ばれる棒を使うことで、小さな力で大きなものを動かすことが出来るという原理)の意味で、小額の資金でより大きな資金の取引をすること。
- * 手仕舞い : 今持っているポジションを決済することで、仕切りともいう。
- * 両建て : 同一通貨で買い・売りの両方のポジションを同時に持つこと。
- * ナンピン : 相場の状況に応じて売買の値段を平均する売買方法。買って相場が下落したら更に買って平均の買値を下げ、売って相場が上昇したら売り増しし、平均の値を上げる。
- * リスクヘッジ : 「ヘッジ」は軽減するとう意味で、リスクを軽減するということ。ヘッジするというのも同じ意味の言葉で使われる。
- * 分散投資 : 複数の外貨に投資することで、リスクを回避するということ。
- * 24時間取引 : 外国為替のメリットの一つで、外国為替の市場が24時間取引可能なことを指している。
これは、一つの市場が24時間取引されているということではなく、時差の関係から、どこかの市場で常に取引がされているという状態を表している。

3. FX 注文用語

- *約定 : 注文が成立すること。
- *始値/終値 : 取引が開始されて、一番最初に約定された値段のことを始値と言う。
反対に、その期間内の一番最後に約定された値段のことを終値と言う。
- *気配値 : 今現在、実際に為替取引で提示されている希望価格のこと。気配値が表示されている表は、売り注文の「金額と料」買い注文の「金額と料」が照らし合わされていて、これから取引が行われるであろう価格の一覧表になる。
- *高値/安値 : 取引時間内に成立した取引レートの中で一番高い値段を高値、安い値段を安値と言う。
- *値洗い : 未決済のポジションを、実際の市場レートで計算して現在価値に換算すること。
- *含み益/含み損 : 持っている未決済のポジションが、その時点の取引レートで見た場合、利益が出ていることを含み益、損失が出ていることを含み損と言う。

4. FX チャート用語

- *レンジ相場 : 一定の価格帯で上下している相場状況のことを言い、そのような相場をレンジ相場と呼ぶ。
- *上げ相場 : だんだん値段が高くなっている相場のこと。
- *上昇相場/下降相場 : 相場が上昇と下降をして細かい変動を繰り返しながら、全体が右肩上がりになっている相場のことを上昇相場、反対に右肩下がりになっている相場のことを下降相場と言う。
- *移動平均線 : 為替相場の変動を、過去における一定期間の平均値を出してグラフにしたもの。
- *ローソク足 : 一定期間の為替相場の変化結果を一目で見られるように、その日(または週や月等)の「始値」「終値」「高値」「安値」の4要素(これを四本値と言う)と、価格が上昇傾向にあったか下落傾向にあったかという方向性を図形にしたもので、これを並べることでローソク足チャートが出来る。
ローソク本体の部分は「実体」と呼ばれ、その実体が白いものを「陽線」、黒いものを「陰線」と呼び、(各証券会社によって色が異なります) 実体の上下に伸びている線は「ヒゲ」と呼ばれる。
始値より終値が高かった時には陽線になり、始値より終値が安かった時には陰線になる。
- *トレンド : 為替相場全体の大きな流れのことを言う。ローソク足チャートからトレンドを判断する際、用いられるものをトレンドラインと言う。
- *上昇トレンドライン/
下降トレンドライン : 為替チャートの安値を直線で結んだときに右肩上がりになるものを上昇トレンドライン(下値支持線)、高値を直線で結んだときに右肩下がりになるものを下降トレンドライン(上値抵抗線)と呼ぶ。
- *押し目買い : 上昇傾向にある相場が一時的に下がった状態のことを押し目と言い、価格が上昇している外貨の押し目を狙って買い、再度上昇した(反発した)ところで売ること押し目買いと言う。
- *戻り売り : 下降傾向にある相場が一時的に上がった状態のことを戻りと言い、戻りの時に売って値が戻ったら買うことを戻り売りと言う。
- *順張り/逆張り : 今の相場の流れにのってそのままの流れの取引を行うことを順張り、反対に「買われすぎ」「売られすぎ」を判断して、今までと逆の流れの取引を

することを逆張りと言う。

- *クロス : 為替チャートには短期と長期の2本の移動平均線が用いられ、この2本の線の
交わりから為替レートの転換点(トレンドの転換点)を読み取ることが出来、
この交差をクロスと呼ぶ。
- *ゴールデンクロス : 短期の移動平均線が長期の移動平均線を「下から上」に突き抜ける形で、
このクロスが出たら、為替レートが「上昇に転じた」というサインになる。
- *デッドクロス : 短期の移動平均線が長期の移動平均線を「上から下」に突き抜ける形で、
為替レートが「下降に転じた」というサインになる。
- *テクニカル分析 : 過去の価格・チャートによって、将来の価格動向を予測する分析方法。
- *ファンダメンタルズ分析 : 世界の政治状況や経済環境など、株式市場や為替相場を動かす要因(=ファンダ
メンタルズ)から、将来の価格動向を予測する分析方法。
- *ボリンジャーバンド : テクニカル指標の一つで、相場の変動幅や、反転のポイントを判断出来る。
このバンドは移動平均線を基に描かれ、相場の上下に位置し、相場がボリンジャー
バンドに接触したら、そこが上限や下限と判断して、売りや買いのサインに
なる。

《FX 注文方法の種類》

*注文の名前	*説明
*成行注文	現在の値段で売買する注文方法で、マーケットオーダーとも言われる。注文するとすぐ約定する。
*指値注文(リミットオーダー)	<p>売買取引注文をする時にあらかじめ売買の希望価格・有効期限を指定して出す注文方法。</p> <p>「アスクレートが〇円になったら買う」「ビットレートが〇円になったら売る」といった自分が買いたい(売りたい)と思う値段を指定する注文方法。</p>
*逆指値注文(ストップオーダー)	指値注文と同じように金額を指定して注文する方法だが、その金額の指定が「ビットレートが〇円まで下がったら売る」という注文。つまり、利益になるように条件を指定する指値注文とは反対に、損の拡大を防ぐため、これ以上損出来ない金額を指定する注文方法。
*IFD 注文	<p>「If Done」の略で、「もしも注文が約定したら、次の注文が有効になる」という注文です。</p> <p>例えば、為替レートが1ドル100円の時に、「1ドル=99円になったら買う」もしも約定したら「1ドル=101円になったら売る」という注文を出すのがIFD注文で自動的に利益確定をしてくれる。反対に「1ドル=99円になったら売る」というIFD注文を出せば、損失拡大を自動的に防いでくれる注文になる。</p>
*OCO 注文	<p>「One Cancel One Other」の略で、IFD注文と同じように2つの注文を同時に出す方法だが、IFD注文とは違い、「どちらか一方の注文が約定したら、もう一方の注文はキャンセルする」という意味の注文になる。</p> <p>決済注文によく用いられる。</p> <p>例えば、1ドル=100円でドルの買いポジションを持っている時、利益確定のために「1ドル=101円になったら売る」とロスカットのために「1ドル=99円になったら売る」というOCO注文を出せば、利益確定とロスカットに両方を同時に設定出来、どちらかが約定したら、もう一方はキャンセルされる。</p>
*IFO 注文	<p>「If Done One Cancels The Order」の略で、IFD注文とOCO注文を組み合わせた注文方法。「もしも注文が約定したら、次の2つの注文が有効になる。どちらか一方の注文が約定したら、残りの注文はキャンセルされる」という注文。</p> <p>例えば、1ドル=100円の時、IFO注文を使えば「①1ドル=99円になったら買う」がもしも約定すれば、利益確保のために「②1ドル=101円になったら売る」と、ロスカットのために「③1ドル=98円になったら売る」という3つの注文を出す。この時、①の注文が約定しないかぎり、②③の注文は有効にならない。そして、①が約定すれば、②③のどちらかの条件を満たしたほうが約定され、もう一方はキャンセルされることになる。</p> <p>IFO注文は新規注文から決済注文まで自動的に行ってくれる注文方法。</p>